

環境管理学科

2024年度 研究活動報告

- ① 水圏生態学研究室
- ② 生態系保全研究室
- ③ 森林資源学研究室
- ④ 環境化学研究室
- ⑤ 国際開発・環境学研究室
- ⑥ 環境政策学研究室

水圏生態学研究室 教授 北川 忠生、准教授 河内 香織、准教授 宮崎佑介

1) 令和 6 年度活動報告

水圏生態学研究室では、さまざまな水域における研究教育活動を実施した。北川教員は、魚類の進化や保全研究、河内教員は、河川および森林と河川の接続域、ならびに奈良県内の河川を中心とした研究・教育を行うとともにゴルフ場を対象とした OECM に関連した研究、宮崎教員は、魚類の分類や生態に関する研究を実施した。

2) 主要な研究・教育業績

「著作」

- 1) 福井 歩 (著・写真), 宮崎 佑介 (監修) (2024) ゆかいな魚たち 〜フグ、ハリセンボン、カワハギ、アイゴ、ハオコゼ、ゴンズイ〜. 少年新聞社, 東京. 64 pp.

「原著論文」

- 1) Okada, R., K. Morita, T. Toyama, Y. Yashima, H. Onozato, K. Takata & T. Kitagawa (2024) Reconstruction of the native distribution range of a Japanese cryptic dojo loach species (*Misgurnus* sp. Type I sensu Okada et al. 2017) : has the Type I loach dispersed beyond the Blakiston's Line? Ichthyological Research 71: 337–352. (Ichthyological Research 2024 Editors' Choice Article)
- 2) 福田紗良・小寺彩未・宮部和樹・土師百華・北川忠生・小林牧人 (2024) 水田におけるミナミメダカの卵の産み付け基質. 自然環境科学研究 37: 1–7.
- 3) 和田一步・八嶋勇氣・北川忠生 (2024) 琵琶湖流入水路におけるビワコガタスジシマドジョウの年間採捕記録. 地域自然史と保全 46: 103–108.
- 4) 岡 隼斗・八嶋勇氣・北川忠生 (2025) 九州南部の川内川水系上流域に生息するオオヨドシマドジョウ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 53: 40–49.
- 5) 畠中智康・佐藤 崇・宮崎佑介 (2024) 千葉県館山市布良沖から釣獲されたウマヅラハギの色彩変異個体. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 49: 14–21.
- 6) 鶴川貴也・野村玲偉・宮崎佑介 (2024) 沖縄県宮古島初記録のハウセキハタモドキ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 52: 9–12.
- 7) Kobayashi, Y. & Y. Miyazaki (2025) Morphological and histological analyses of ovary and pelvic fin structures in the deep-sea jellynose fish, *Guentherus katoï*. Aquatic Animals 2025: AA2025-10-.

「解説」

- 1) 河内香織 「ダム湖底に堆積する土砂と有機物を対象としたアップサイクルの試み」 河内香織一般社団法人農業電化協会 2025 年 3 月

- 2) 河内香織・半場祐子・池本美都・木村恵・三宅恵子・曾我昌史「第 22 回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加してシンポジウムテーマ 女子中高生の進路選択 ～環境にとらわれず自分の興味を伸ばせるように～」 情報提供, 報告書執筆 一般社団法人 日本生態学会 ニュースレターNo.65 pp1-3. 2025 年 1 月 27 日

「学会発表」(紙面の都合上, 件数のみ記載)

北川 国内学会 6 件、国際シンポジウム 3 件

河内 国内学会 4 件、国際学会 3 件

受賞「第 72 回日本生態学会大会ポスター賞 優秀賞, ゴルフ場の池に出現する動植物の特徴を探る一周辺の農業用ため池と比較して」 一般社団法人日本生態学会
廣田瑞希, 米口未来, 渋谷真司, 栗原悠人, 畠山涼樹, 河内香織

宮崎 国内学会 4 件、国際シンポジウム 1 件

3) 研究資金獲得状況

「公的資金」

- 1) 遺伝子改変された外来魚放流による駆除は現実的か: 河川生態系への影響にも着目して 日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金(海外連携研究) 2024 年 9 月 - 2029 年 3 月 計 20,930 千円 (河内)
- 2) ゴルフ場池は生物の生育生息場所として機能するか 関西自然保護機構 2024 年 4 月 - 2025 年 3 月計 計 100 千円 (河内)
- 3) 過去の標本を活用した河川在来魚類の食性の変遷に関する研究 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究(C) 2022 年 4 月-2025 年 3 月 計 3380 千円 (河内)
- 4) 遊漁者によって記録された過去の生物多様性情報を科学的に評価する手法確立 日本学術振興会 科学研究費補助金 若手研究 2020 年 4 月-2024 年 3 月 計 4160 千円 (宮崎)
- 5) 採捕方法として“釣り”を用いた魚類調査に基づく統計解析: 南紀・串本沖での試行 公益財団法人サロン・ド・K 財団 2024 年度研究助成金 2024 年 10 月-2025 年 9 月 計 700 千円 (宮崎)

「受託・寄附研究」

- 1) 受託研究費として 3 件, 寄附研究費として 1 件 (北川) 3,200 千計
- 2) 受託研究費として 1 件 (河内) 計 300 千円
- 3) 寄附研究費として 1 件 (宮崎) 計 700 千円

4) 各種委員会委員などの兼務業務

- 1) 奈良県, 自然環境保全審議会専門委員 (奈良県レッドデータブック改訂分科会委員)

(北川・宮崎)

- 2) 奈良県, 農業農村整備環境配慮検討委員会 委員 (北川・宮崎)
- 3) 日本魚類学会, 自然保護委員会委員 (北川・宮崎)
- 4) 大阪府 堺市緑の政策審議会, 堺市緑の政策審議会 委員 (河内)
- 5) 日本生態学会, 生態系管理専門委員会 委員 (河内)
- 6) 日本景観生態学会 和文誌編集委員 (河内)
- 7) 日本生態学会キャリア専門委員 奈良県内水面 (河内)
- 8) 漁場管理委員会, 委員 (河内)
- 9) 日本景観生態学会, 奨励賞幹事 (河内)
- 10) 大阪府堺市環境局保全部環境対策課, 堺市廃棄物処理施設及び汚染土壌処理施設に係る専門委員 (河内)
- 11) 久保川イーハトーブ自然再生協議会, 委員 (宮崎)
- 12) 環境省, 希少野生動植物種保存推進員 (宮崎)
- 13) 日本魚類学会, 代議員 (宮崎)
- 14) 東大和市, 東大和市立郷土博物館協議会 委員 (宮崎)
- 15) 日本生態学会, 保全生態学研究 編集幹事 (宮崎)

5) 新聞・雑誌等記事掲載およびテレビ・ラジオ出演等

- 1) TBS News23 (北川) 2024 年 11 月 4 日 アメリカザリガニの駆除後の有効活用 (北川)
- 2) テレビ東京 しまじろうのワオ! 番組中歌 監修 (北川)
- 3) 水産タイムス, 2024 年 4 月 19 日, 4 面, 魚の解体見学が子どもの脳に効果 (宮崎)
- 4) 日本テレビ「超無敵クラス」, 亀井裕介氏出演回, 監修 (宮崎)
- 5) 『隔週刊つり情報』, 巻末カラー連載「珍魚ファイル」 (宮崎)
- 6) 『Boat CLUB 2025 年 1 月号』, 「釣って楽し 食べてうまし カワハギ その生態にせまる」 pp. 26-29 (宮崎)

生態系保全研究室

准教授 早坂大亮、講師 ジン・タナンゴナン

1) 令和6年度活動報告

生態系保全研究室は、陸域～汽水域～沿岸域に至る広範な環境を網羅した形で、生物多様性や複雑な生物群集の成立・維持のメカニズム解明を目指すとともに、それらに対する環境攪乱がおよぼす影響の評価とその緩和に向けたさまざまな課題に対応すべく、日々研究に邁進している。主要なテーマとしては、侵略的外来生物、地球温暖化、化学物質汚染（マイクロプラスチックを含む）等が挙げられる。

これらに関連した研究成果活動状況は下記の通りである。

2) 主要な研究・教育業績

「著作」

特になし

「原著論文」（[†]筆頭著者）

早坂

- 1) 川西基博・郡山大輔・早坂大亮．口永良部島と屋久島の森林におけるシカ不嗜好性植物の優占状況．*Nature of Kagoshima* **51**, 249-256 (2025)
- 2) 石若直人・中筋安祐美・梅田悠起・澤畠拓夫・早坂大亮．鹿児島県口永良部島の8月における鳥類相の初観察記録．*野生生物と社会* **13**, 19-25 (2025)
- 3) Hashimoto K^{†,*}, Hayasaka D[†], Eguchi Y, Seko Y, Cai J, Suzuki K, Goka K, Kadoya T[†]. Multifaceted effects of variable biotic interactions on population stability in complex interaction webs. *communications biology* **7**, 1309 (2024)

ジン

- 1) Tanangonan J, Wakebe F, Shimakoshi M, Hattori Y, Nishikawa M, Tsureishi K. In-water photo-ID to estimate foraging movements of green turtles *Chelonia mydas* in Apo Island, Negros Oriental, Philippines. *Bulletin of Marine Science* **101**(1), 315-323 (2025)

「学会発表」（紙面の都合上、件数のみ記載）

早坂

計 27 件（国際：poster 6 件、oral（招待）1 件、国内：ポスター発表 15 件、口頭発表 5 件）（うち優秀ポスター賞 1 件（国際）、優秀口頭発表賞 2 件（国内）、優秀ポスター賞 1 件（国内））

ジン

国内学会 1 件（ポスター1 件）

3) 研究資金獲得状況（公的資金、受託・寄附研究、その他に分けて記載する）

「公的資金」

早坂

- 1) 内閣府・BRIDGE「生物多様性と農業生産を脅かす侵略的外来種の根絶技術の開発」（令和 6-8 年度）予算総額・約 800,000 千円（分担）（代表:大久保 悟・農研機構）
- 2) 科学研究費補助金 挑戦的研究（開拓）「生態系レジリエンスにもとづいた生態毒性評価」（令和 3 年度～令和 5 年度）25,870 千円（代表） ※ 令和 6 年度まで延長
- 3) 科学研究費補助金 基盤研究（B）「2015 年口永良部島噴火後の植生遷移を規定する地下部生態系の役割の解明」（平成 31 年度～令和 4 年度）13,200 千円（代表） ※ コロナ対応につき令和 6 年度まで延長

ジン

特になし

「受託・寄附研究」

早坂

- 1) 特になし

ジン

- 1) 生駒市・受託研究「カワバタモロコ保護活動に関する研究」500 千円（代表）

4) 各種委員会委員などの兼務業務（学外の公的な委員）

早坂

日本緑化工学会第 18 期 理事，日本雑草学会 和文誌編集委員会 委員，ICE2024-International Congress of Entomology 2024 (ICE2024 Kyoto) Local Organizing Committee，ほか外来生物防除に係るアドバイザーなど

ジン

京都大学フィールド科学教育研究センター 海域ステーション舞鶴水産実験所共同利用運営委員会委員，（公益財団法人）「京都国際学生の家」の学寮運営委員会委員，OM 会副会長

5) 新聞・雑誌等記事掲載およびテレビ・ラジオ出演等

早坂

讀賣新聞 セアカゴケグモ一部で定着か... 広島市や福山市今年も複数確認 2024 年 9 月 20 日

日刊工業新聞 弘前大など、生物同士の関係性 3 分類 生態系保全 効果的に対策 2024

年 10 月 23 日

ジン

特になし

1) 令和6年度活動報告

井上教授は、主としてスマート林業と竹林に関する研究活動と社会貢献活動を行った。また、澤島准教授は、樹木の病害虫を主とした研究活動と社会貢献活動を行った。加えて、井上教授は、林学系公務員試験対策の自主ゼミを開講し、18名の合格者を輩出した（林野庁（総合職）1名、林野庁（一般職）5名、気象庁（一般職）1名、千葉県1名、愛知県1名、滋賀県1名、京都府1名、大阪府1名、兵庫県1名、奈良県2名、和歌山県2名、岡山県1名）。

2) 主要な研究・教育業績

「表彰」

- 1) 小澤瑞樹. 航空機レーザデータを用いた空中ビッターリッヒ法の検討. 大学院部長賞, 近畿大学大学院
- 2) 小澤瑞樹. 航空機レーザデータを用いたシミュレーションによる空中ビッターリッヒ法の検討. 優秀発表賞, 応用森林学会
- 3) 佐原怜一郎. 強剪定がアラカシの細根量と外生菌根に及ぼす影響のリターの有無による差異. ベストペーパー賞, 日本造園学会

「原著論文」

- 1) Umami K, Inoue A. A model for predicting mean diameter at breast height from mean tree height and stand density. Journal of Forest Research 29(3): 186-195 (2024).
- 2) 金田奈実・井上昭夫・柏原 友・坂田裕輔・井田民男. GISを用いた竹バイオマス資源の利用可能量推計. スマートプロセス学会誌 14(1): 30-34 (2025).
- 3) 佐原怜一郎・葛西 弘・澤島拓夫. 強剪定がアラカシの細根量と外生菌根に及ぼす影響のリターの有無による差異. ランドスケープ研究 87(5): 377-382 (2024).
- 4) Kasai H, Ohgita S, Osaki K, Murase S. The new neanurid collembola, *Paranura* and *Yuukianura* (Neanuridae: Neanurinae) from Japan, with a checklist of species and keys to the Japanese genera of Neanurinae. Zootaxa, 5501(2): 315-333.

「紀要等」

- 1) 田中豊一・南 公登・澤島拓夫. セアカゴケグモ幼体の屋外環境における空中移動の確認. ペストロジー 39(2): 73-78 (2024).
- 2) 田中豊一・南 公登・澤島拓夫. セアカゴケグモ*Latrodectus hasseltii*の卵嚢移動行動. ペストロジー 39(2): 79-81 (2024).
- 3) 村瀬駿弥・松井啓祐・清水裕子・入江 努・澤島拓夫. 睡眠の延長が人工飼料を用い

たフタホシドクガ幼虫の成長に対して及ぼす影響. 近畿大学農学部紀要 57:38-43 (2024).

「学会発表」

- 1) 小澤瑞樹・井上昭夫. 航空機レーザデータを用いたシミュレーションによる空中ビッターリッヒ法の検討. 第 75 回応用森林学会大会 (2024)
- 2) Kasai H, Sawahata T. Specificity and species diversity of collembola communities on fallen branches. ICE 2024 Kyoto (2024)
- 3) Murase S, Sonoda R, Matsui K, Sawahata T, Asai H. Susceptibility of spongy moth egg masses to allylisothiocyanate (AITC). ICE 2024, Kyoto (2024)
- 4) Sawahata T, Osaki K, Tokuda K. Method for emerging of Imago of paedogenetic gall midges using decaying branches. ICE 2024, Kyoto (2024)

3) 研究資金獲得状況

「公的資金」

- 1) 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「空中ビッターリッヒ法ードローンによる簡便な森林調査法の開発」 (代表: 井上昭夫) (令和 3 年度～令和 7 年度) 4,160 千円.

「受託・寄附研究」

- 1) 受託研究費「農地管理が中型土壌動物相に与える影響の評価」 (代表: 澤島拓夫) (令和 6 年度) 400 千円

4) 各種委員会委員などの兼務業務

井上: Trees -Structure and Function (Springer) Editor, Journal of Forest Research (Taylor & Francis) Editor, Frontiers in Forests and Global Change (Frontiers) Review Editor, 近畿中国森林管理局「地域管理経営計画等に関する有識者懇談会」委員, 奈良県生駒市「生駒市森林整備方針のあり方についての懇話会」委員, 近畿大学×神戸大学 SDGs フォーラム講演ほか

澤島: 大阪府環境審議会野生生物部会委員, 奈良県自然環境保全審議会専門委員, 奈良県レッドデータブック改訂分科会委員, 日本土壌動物学会評議員, 日本樹木医会奈良支部会副会長, 第一回アジア国際土壌動物会議の事務局ほか

1) 令和 6 年度活動報告

環境化学研究室では、微生物を利用した①温暖化対策技術の開発、②微生物による環境浄化技術の開発、③化学物質が環境に及ぼす影響評価の 3 つのテーマについて主に研究をおこなっている。①では、リグノセルロース系バイオマス変換に適した微生物の単離や、それらの菌を用いた有用物質生産を進めている。②では、プラスチックの表層に生息する微生物による有機汚染物質の分解、各種生分解性プラスチックの微生物分解について検討を進めている。③では、得られた知見から、環境生態系を底辺から支え、環境中に多種多様な形態で存在する人間にとって良い微生物には最大限悪影響を及ぼさず、我々の生活を脅かす悪い微生物を制御する手法の構築を目指している。具体的には、薬剤耐性菌が生じるメカニズムの解明や、環境調和型を目指した新規殺菌消毒剤の開発とその応用などについて研究している。その他には、キャンパス内の里山植物やきのこの生理活性に関する基礎的研究も実施している。

以上のように、環境化学研究室では、生活環境中や自然環境中に存在する人間にとって危険な諸要因(微生物や化学物質等)を正しく評価・解析(環境リスク評価)するとともに、海洋資源や陸上資源などの天然資源からの有用物質の探索について研究を実施している。

2) 主要な研究・教育業績

「原著論文」

- 1) Shimizu T, Suzuki K, Inui M. A mycofactocin-associated dehydrogenase is essential for ethylene glycol metabolism by *Rhodococcus jostii* RHA1. *Applied Microbiology and Biotechnology* 108(1):58. (2024)
- 2) Shimizu T, Inui M. Novel aspects of ethylene glycol catabolism. *Applied Microbiology and Biotechnology* 108(1):369. (2024)
- 3) Mori, M., Miki, S., Inayoshi, M., Yamamoto, M., Ozaki, R., Sakagami, Y., & Jojima, T. Effect of effective microorganisms on water purification and microbial community in a pond. *CLEAN-Soil, Air, Water*, 52(7), 2300353. (2024)

「学会発表」

- 1) 内田大河、赤田吏音、田村優樹、森 美穂、清水 哲、城島 透. *Cupriavidus* 属細菌を用いた ギ酸からの SCP 生産の検討. 第 37 回日本微生物生態学会. (2024)
- 2) 加籠六海社、清水 哲、城島 透. リグノセルロース系バイオマスの利用に適した好熱・好酸性菌の探索. 第 37 回日本微生物生態学会. (2024)
- 3) 清水 哲、鈴木 快、乾 将行. *Rhodococcus jostii* RHA1 株のエチレングリコール代謝. 日本農芸化学会 2025 年度大会. (2025)

- 4) 徳山秀太、清水 哲、乾 将行. *Rhodobacter sphaeroides* によるグルコースからの水素生産性向上. 日本農芸化学会 2025 年度大会. (2025)
- 5) 寺本陽彦、清水 哲、須田雅子、乾 将行. 大腸菌を宿主とした異種ヒドロゲナーゼによる NADH からの水素生産系の開発 日本農芸化学会 2025 年度大会. (2025)

「招待講演」

- 1) 清水 哲. 光合成細菌による水素生産. 新化学技術研究推進協会ライフサイエンス技術部会講演会 (2024)

3) 研究資金獲得状況 (公的資金、受託・寄附研究、その他に分けて記載する)

「受託・寄附研究」

- 1) 寄附研究費として 1 件, 計 983 千円 (清水)

4) 各種委員会委員などの兼務業務 (学外の公的な委員)

- ・ 特になし

5) 新聞・雑誌等記事掲載およびテレビ・ラジオ出演等

- ・ 特になし

1) 令和6年度活動報告

1. スマート農業の実証・開発に関する調査・研究
2. 先端技術を用いた農地・ため池等農業施設管理に関する研究
3. 水田内の水理・熱環境モデリングに関する研究

2) 主要な研究・教育業績

「原著論文」

- 1) Maulana Ibrahim Rau, Atriyon Julzarika, Natsuki Yoshikawa, Takanori Nagano, Masaomi Kimura, Budi Indra Setiawan, Lan Thanh Ha. Application of topographic elevation data generated by remote sensing approaches to flood inundation analysis model. *Paddy and Water Environment*, **22(2)**, 285–299 (2024).
- 2) van der Laan, M., Virtanen, S., Matsuno, Y., Castelli, G., Fayrap, A., Cresswell, R. et al. Ecosystem services of irrigated and controlled drainage agricultural systems: A contemporary global perspective. *Irrigation and Drainage*, 1–15 (2024).
- 3) 岩瀬充季, 飯田俊彰, 木村匡臣, 中田 達, 久保 成隆. 水田ブロック一括水管理を目指した開水路での均等配水装置. *農業農村工学会誌*, **92(8)**, 573–576 (2024).
- 4) 柴野一真, 萩原大生, 木村匡臣, 大野健太郎, 鈴木哲也. 画像クラスタリングに熱収支解析を組み合わせたパッシブ赤外線サーモグラフィ法によるダムコンクリートの表層損傷評価. *ダム工学*, **34(2)**, 129–143 (2024).
- 5) Raj, A., Yadav, B., Patidar, N., Krishan, G., Deka, B. J., Jeong, S., Pandey, A., Matsuno, Y., and Singh, R. D. Artificial recharge initiatives in India: Challenges and future scope. *APN Science Bulletin*, 14(1), 93–109 (2024).
- 6) Atsushi Okayama, Atsushi Yamamoto, Masaomi Kimura, Yutaka Matsuno. Utilizing convolutional neural network (CNN) for orchard irrigation decision-making. *Environmental Monitoring and Assessment*, **197**, 168 (2025).
- 7) 鈴木哲也, 柴野一真, 大野健太郎, 木村匡臣, ニーネル アルバ, ハワ キアン チャイ. 深層学習によるダム表面温度の推定とその精度改善. *農業農村工学会誌*, **93(1)**, 11–14 (2025).
- 8) 木村延明, 皆川裕樹, 木村匡臣, 福重雄大, 吉永育生. 1次元非定常流計算を導入した Physics-informed neural networks(PINN)の開水路流れへの適用. *土木学会論文集*, **81(16)**, 24–16819 (2025).
- 9) 木村延明, 皆川裕樹, 木村匡臣, 朝稲 京. 観測値・AI・浸水情報を用いた水利施設の操作支援システム開発. *農業農村工学会誌*, **93(2)**, 87–91 (2025).

「学会発表」

国際学会 9 件、国内学会 11 件

3) 研究資金獲得状況

「公的資金」

- 1) 科学研究費補助金 学術変革領域研究 (A)「水共生を支える社会・文化・行動の解明：守るべきもの、変わるべきもの」(分担：木村) 400 千円
- 2) 科学研究費補助金 基盤研究 (B)「極端気象現象に対して頑強な順応型デルタ水管理プラットフォームの開発」(分担：木村) 1,500 千円
- 3) 科学研究費助成事業 挑戦的研究 (萌芽)「水田温度データに基づく新たな広域水田モニタリング手法の開発」(代表：木村、分担：松野) 2,800 千円

「受託・寄附研究」

- 1) 受託研究費として 2 件、計 22,318 千円

4) 各種委員会委員などの兼務業務 (学外の公的な委員)

農林水産省国際かんがい排水委員会日本国内委員会委員 (松野・木村)、大阪狭山市水循環協議会委員、奈良市スマート農業推進協議会委員、Paddy and Water Environment, Editor、水文・水資源学会編集出版委員会委員など (以上、木村)、奈良県公共事業評価監視委員会委員、農業農村工学会理事・国際員会委員・京都支部部会長、国際水田水環境学会 (PAWEES) 顧問、亀岡中部地区国営事業環境アドバイザー委員会委員、奈良県総合治水対策推進委員会委員、日本水土総合研究所客員研究員など (以上、松野)

環境政策学研究室

教授 鶴田 格、准教授 前潟光弘

1) 令和 6 年度活動報告

環境政策学研究室では、農山村や離島での社会経済的振興と環境保全を目標に、主として過疎地域の村おこしと里地・里山・里海の保全に関する活動を行っている。

- ① 当研究室では、奈良県東部の大和高原で平成 26 年度より在来作物の研究を実施してきた。令和 6 年度も、山添村および農学部内の圃場で雑穀類のアワ、キビ、モロコシを栽培し、その収穫物を用いて県内の福祉作業所で雑穀クッキーを作成し、販売をはじめている。
- ② 平成 28 年度より活動を始めた里海班では、条件不利地域として離島を取り上げ、様々な離島の現状について統計等を利用して調査し、最終的には年 1 回の現地調査を実施してきた。令和 6 年度は、担当教員の体調不良などの理由により、前年に引き続き新たな現地調査は実施できなかった。

2) 主要な研究・教育業績

「著書」

なし

「原著論文」

なし

「その他」

- 1) 鶴田 格「アフリカ農民はなぜ国家に捕捉されないのか: 比較文明史的視点からの考察」機関誌「アフリカ」vol. 64 (2024 年冬号), pp.10-15.

- 2) ヤンダウェ・ファンデルプルフ (著)、池上 甲一 (監訳)、松平尚也・山本奈美・黒田 真・鶴田 格 (翻訳) 『小農経済が変える食と農——労働と生命の再生産 (グローバル時代の食と農) 』2024 年 10 月 (第 5 章担当)。

「学会発表」

国内 0 件、海外 0 件

3) 研究資金獲得状況

「公的資金」

- 1) 科学研究費補助金 基盤研究 (B)「家族農業の持続性とレジリエンスに関する実証研究：アフリカと東南アジアの比較を軸に」(令和 6 年度～令和 9 年度)(代表者：鶴田 格) 直接経費: 3,700 千円
- 2) 科学研究費補助金 基盤研究 (B)「断片化する食文化プールの再編と食の在来知の「継ぎ目」をめぐる人類学的研究」(令和 5～10 年度)(分担者：鶴田) 直接経費 450 千円
- 4) 各種委員会委員などの兼務業務（学外の公的な委員）
なし
- 5) 新聞・雑誌等記事掲載およびテレビ・ラジオ出演等
なし